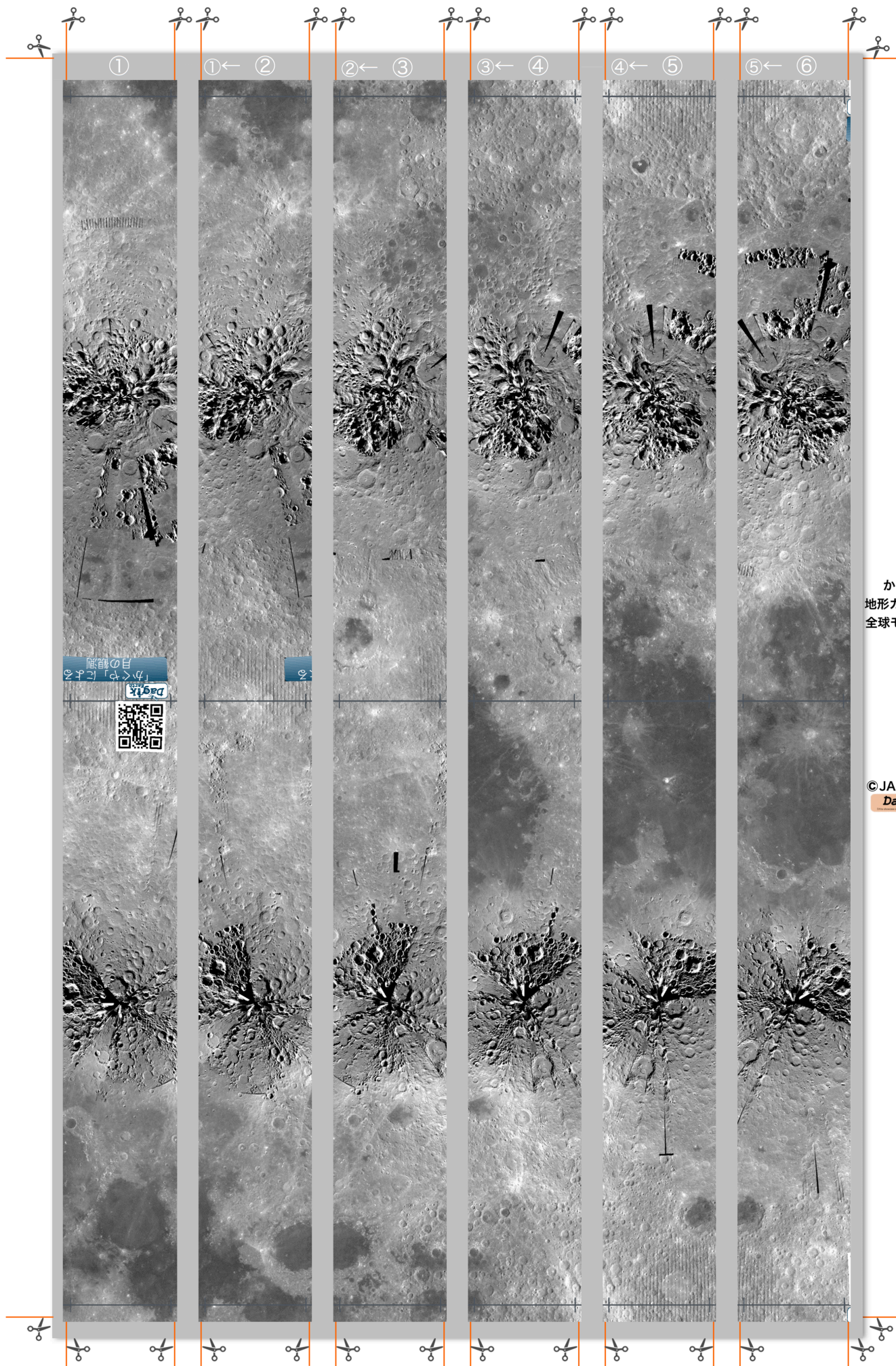






<http://earth.dagik.org>

「かぐや」による月の観測

月の直径は地球の1/4の大きさです。地球と月とは地球の直径30倍くらい離れています。地球が1mの球だとすると月は30m先にあるバスケットボールくらいになります。

直径7.5cmの月球儀を9mくらい離れてみると、地球から見た月の見た目の大きさになります。

月は地球に同じ面を向けているため、月の裏側を目で見たことがあるのはアポロ計画の宇宙飛行士26人だけです。月の地球側の面はウサギに例えられたりする黒い模様(「海」と呼ばれています)がありますが、裏面には海は少ないです。

月の明るい部分が太陽の光で照らされている所だと言うことは、古くから月と太陽の動きの観察から知られていました。そのため月が丸い球体だという事も知られていました。

データ画像作成: JAXA/ISAS 科学衛星運用・データ利用ユニット

コンテンツ説明: <http://dagik.org/P/16>

手作り地球儀のつくり方：帯型シート（直径 7.5cm）

準備するもの

- ・直径 7.5cm の球（ガチャガチャカプセルや発泡スチロール球など）
 - ・印刷する紙（再剥離タイプのノーカットラベルシートがお勧め）
 - ・カラープリンター（インクジェット式の方が色が剥がれずにきれいに作れます）
 - ・カッターと定規（あるいはハサミでも）
 - ・スプーンなど硬いもの（貼り付けた後で、シワを伸ばすのに使います）
- 必要に応じて：
- ・のり（ラベルシートではなく普通紙に印刷する場合は必要）
 - ・磁石や重り（ガチャガチャカプセルの場合はカプセルの中に磁石や重りを入れられます。発泡スチロール球の場合は、穴を開けて埋め込むことができます。）

（印刷する）

- (1) 拡大縮小をせずに **100% のサイズで印刷** します。（画像が印刷されている帯の両端付近の線の間の長さが **23.5cm** くらいに印刷されます。）

（切る）

- (2) **オレンジの線**（灰色と画像の境界ではなく）でまっすぐに切り取り、6本の帯にします。

（貼る）

- (3) **数字の順番**に貼ります。まずは①の帯を貼りましょう。
- (4) カプセル球の線と、型紙の赤道の線を合わせて貼ります。数字が書いてある所を下に重ねよう、南極等の・マーク（黒点）も目印にしながら貼ります。
- (5) 球を両手で軽く握り、紙①をなじませます。
- (6) 次の②の帯を①の右側に貼ります。向きに注意してください。少しずつ重なるようになっていきますので、赤道の短いたて線マーク→を重ねてください。
- (7) あとは同じように繰り返し線や画像ができるだけずれないように重ねて貼り合わせましょう。

（シワを伸ばす）

- (8) 貼り付けた帯がよれて、シワになっている部分を、スプーンの背中（丸い方）でこすって伸ばし、平らにしてください。全ての帯を貼ってからこすっても良いですし、1枚の帯を貼るごとにこすっても良いです。

